





松山自動車道

いよ西条IC



## 1 お堀端界隈

旧西条藩陣屋跡を巡る堀端には、柳の古木が並び、お堀の中を錦鯉がゆったりと泳ぐ。ベンチや親水階段なども整備された市民の憩いの場となっている。

堀の奥の鬱蒼とした大木の下には、堂々とした「西条藩陣屋大手門」（屋根瓦には「紀州六つ葉葵」「西条隅切り三つ葉葵」が使われている。）が西条高校の正門として高校生を見守っている。大手門の北側には、裁判所や郡役所の正門などに移設されてきた歴史を持つ「北御門」が残る。

その傍らの白い建物は、昭和26年に浦辺鎮太郎氏が手がけた栄光幼稚園の教会で、礼拝時に鳴らされる鐘の音も素晴らしい。昭和10年建築の近代和風の武道場である「武徳殿」（県内では外には3件＝新居浜2件、野村1件）や、乃木希典（まれのすけ）による「日露戦役記念碑」なども建ち、水都西条、城下町西条のシンボリックな風景が広がる。



お堀端界隈

## 2 西条郷土博物館と田中大祐

昭和42年、倉敷で活躍した建築家・浦辺鎮太郎の手によって設計された西条郷土博物館。浦辺調・倉敷調とも称される、独特の民芸調の建築様式が堀端の景観にマッチしている。

館内には、観音寺市生まれで西条に移住した田中大祐氏が、60余年にわたり収集した鉱物や動物の標本や資料が数多く展示されている。氏は大阪で煙火製造技術を学び、多くの煙火競技大会で優秀な成績を収めた後、西条の地で、鉱物や動物の収集・研究に没頭し、特にアンチモニーの収集に力を注ぎ、市之川鉱山で毛状のアンチモニーを発見したことは学会に一大センセーションを巻き起こした。



西条郷土博物館

## 3 武家屋敷と城下の街並み

市役所のすぐ前にある藤田家のなまこ壁の建物は、3万石城下町西条に残る数少ない武家屋敷の一つ。特に、なまこ壁が菱形になっているものは珍しい。

また、本町や北町界隈にも、長い板塀や青石の石垣、植え込みなど屋敷町の風情が残っているが、近年、格子のある家々が1軒2軒と欠けてきており、大変残念である。

## 4 札の辻

西条藩が城下の住人に種々の「お触れ書き」を出したが、その掲示場だったのが、札の辻。現在もマスマヤ書店の外壁には大型の掲示板が設置してあり、催し物のポスターやチラシが貼られて、情報提供の場となっている。

「お触れ書き」は飯積神社に保存されている。



武家屋敷





擇善堂の扁額



こどもの国



善導寺鐘楼

## 5 金川紙店

古いスタイルの商家。棟札によれば、明治3年の建築。小松で紙を扱っていた先祖が移り住んで商売を始めたという。店先の陳列台や板敷きの店部分、大黒柱は建築当時のまま。黒ずんだ重厚な造りは130年の歴史を感じさせてくれる。

## 6 擇善堂（たくぜんどう）跡

第2次西条藩8代藩主松平頼啓よりゆきの時、藩の学問所「擇善堂」が陣屋の北堀端に設けられた。教育の中心は朱子学で、武家の男子が7歳になると入学し、まず四書の素読からはじめ、13、14歳になると独習生として寄宿舎に収容したという。明治初めに開校した擇善校にその伝統を伝え、今なお、その校風を受け継ぐ西条小学校には、「擇善堂」としたためられた当時の扁額（頼啓の筆によるもの）と孔子の画像が保存されている。

## 7 本陣川界限

お堀から流れ出す川が御本陣川。その源流部に架かる朱塗りの橋が「らんかん橋」で、お堀の水の青や北側の松の緑に映えて、大変美しい。明治時代は普通の石橋だった。川沿いには今も松並木が続き、マツクイムシ被害で各地の松が減少していく今日にあっては貴重な風景で、西条陣屋の土塁に植わっていたであろう松並木を彷彿させる風情がある。

## 8 こどもの国

子どもたちに創作活動の機会を与え、宇宙への夢、科学への関心を持ってもらい、郷土への愛着心を培い、豊かな人間形成を図ることを目的に設置された。郷土に関する展示ホール、遊戯室、各種創作教室、学習研修、プラネタリウム投影などがある。なにより西条のシンボル・「だんじり」と「みこし」が館内の中央に展示されている。

## 9 善導寺鐘楼

伊勢の神戸かんべから第1次西条藩主となった一柳氏ひとつやなぎに従ってきた浄土宗の寺院。鐘そのものはなく、文化財的にも無指定だが、大規模な鐘楼堂で、建築様式的にも歴史的にも価値があると思われる。



## 10 第1次西条藩と風伯（ふうはく）神社

第1次西条藩は、江戸幕府3代将軍家光の時代に、一柳直盛<sup>なおもり</sup>が伊勢神戸から西条6万8600石に転封となり、その赴任途上の病死により長男直重<sup>なおしげ</sup>が西条3万石となったことに始まる。

その直重が陣屋を築造するにあたり、鬼門除けとして、風伯神社を現在の位置に移したといわれる。

## 11 ポーセラーツのアトリエ

小野由貴子さん方の2階。彼女が自ら制作したポーセラーツ（白磁食器に色付けしたもの）の数々が展示されている。優雅な作品とおしゃれな空間は溜息を誘う。実費（500円程度）で創作体験もできる。



ポーセラーツのアトリエ

## 12 西条が誇る“麦”を使った味噌づくり

米・もち米・麦を使っての味噌づくり。伝統の味を学び、伝承しようという活動が西条公民館で始まった。この味噌で、“すいとん”等を調理し、地域の人に味わってもらおう。手作り味噌はスローフードそのもの。郷土の味を後世に伝え、生産量日本一の裸麦をPRすることは、とても重要な取り組み。

## 13 西条漁港

旧西条地区唯一の大規模な漁港。多くの漁船がもやい、カモメが乱舞する、夕焼け時の産業道路の大橋からの眺めは実に素晴らしい。漁船に種々の旗・布が取り付けられ、風にはためくさまも風情がある。



西条漁港

## 14 弘法水

新堀下の樋門と石鉄大権現の灯籠の中間、みお筋のすぐ西側の海中から清水が湧いており、これを「弘法水」と言う。昔は干潮時には良く見えていたが、近年は海水が深くなり見えにくくなった。

『西条誌』に「鉄砲場の少し海中にあり…」とあり、昔、石の標柱をそこに立てたが、いつしか折れて海中に沈んでいたのを北浜の矢原氏が引き上げ、突き出た波止<sup>はつと</sup>の端に建て、海底の水源地から清水を汲み上げ、弘法大師を祀っている。



弘法水





新堀石鎚常夜灯

## 15 新堀石鎚常夜灯

本陣川沿いにあり、かつては、ここが石鎚参詣の上陸港であった。弘化3年（1846年）に建てられたもので、寄進者は岡山の人。当時の瀬戸内海の文化交流を窺うことができる。

## 16 港橋（旭橋、水道橋）

大正10年架設の港橋。クラレ工場へ続く、歴史の重さを感じさせるコンクリート橋。こうらん部に灯りが入っている。県内のコンクリート橋で大正期のものは10に満たない。また、近くには旭橋やクラレへの水道橋として建設されたと思われる吊り橋もあり、水都西条らしい風景となっている。

## 17 クラレ西条

(株)クラレ西条は、昭和11年7月、大原孫三郎氏が「倉敷絹織」の名で創立し、地域とともに歩んできた西条を代表する企業の一つ。

操業当時、大原社長の「寄宿生たちの生活に潤いを」という指示で植えられた約80本の桜が、樹齢70年を超える大木に育った。平成4年から、4月上旬の2日間一般公開されるようになり、市内外から1万人にも及ぶ来場者が訪れる桜の名所になった。クラレ関係者の作品展示コーナーや物産販売、バザーなども出る。工場内の食堂棟も、社員の福利厚生施設として、操業開始の頃完成したもので、シンプルでゆとりのある大空間の中にも近代の装飾が見られる貴重な産業遺産である。工場内の講堂や煉瓦塀なども産業遺産としての価値がある。



港橋

## 18 アサヒビール園

四国で唯一の大手ビール会社の醸造工場。良質の水と空気に恵まれている西条ならではの工場進出。

工場に併設して、できたてのビールを味わうことができるビール園がある。石鎚山を仰ぎ見ながら飲むビールの味は格別で、新しい観光産業として県内外から多くの観光客を集めている。

## 19 800t吊りクレーン

今治造船西条工場には、大きさでは日本一とも言われる、国内最大級の800t門型クレーンが3基。産業都市・西条の象徴的な風景。



800t吊りクレーン



## 20 唐樋

海水の逆流を防ぐ治水施設。御船川の水面に美しいアーチが映えている。

## 21 光明寺

南嶽山清水院といい、西本願寺派に属する。加藤嘉明が当地方を領した時、讃岐国多度郡筆岡（現在の香川県善通寺市）の人・常真を迎え、開基したのが始まりといわれる。加茂川改修をはじめとして、常真がこの地方に遺した土木工事は近世西条発展の第一歩といえる。常真の功績を称え、「常心」の地名が今に残っている。

光明寺が御船川の東の現在の地に移転したのは、昭和25年。その後約50年を経た平成12年に、世界の建築家・安藤忠雄氏の設計による本堂等が新築落成した。まるで「うちぬき」に浮かぶように建つ姿は大変優美で、水、木、コンクリートの調和が見事である。

この光明寺の東には水源があり、朔日市地区の貴重な農業用水として、涸れることなく一年中こんこんと地下水が湧き上がっている。

## 22 アクアトピア水系

観音水から湧きだした清水は、清流となり市内中心部を貫流し、お堀から本陣川へと流れる。都市の中心市街地にホテルが舞い、天然の鮎が生息する、水都・西条ならではの景観を形成する。水系沿いには、岡田新一氏設計の洗練されたデザインの総合文化会館や、木を基調とした総合福祉センターが配され、水との見事な融合を見せている。

総合文化会館横の水飲み場では「うちぬき」を堪能できる。

## 23 「西条奉書・伊予紙（いよまき）」発祥の地（西条市総合福祉センター北西付近）

石鎚山の良質な新町泉の伏流水を利用して、大保木や加茂で産する楮こうぞが西条の手漉き和紙を育てた。

その始まりは定かではないが、寛政3年（1791年）には、西条藩の直営事業として、神拝地区の古屋敷に紙方役所や紙蔵、紙漉き長屋を置き、紙漉き業を営んでいた。西条奉書「伊予紙」と呼ばれ、紙質に優れていたことから、江戸では浮世絵の初摺用紙（いわば「宣伝用」で、その摺り上がり具合が評判を決める）に使われるなど、大変高い評価を受けていた。幕末期の浮世絵文化の一端を西条和紙が支えていたのである。

良質な水が育んだこの伝統的な技術を伝承し、保存していきたいものである。



唐樋



光明寺



総合文化会館とうちぬき





新町泉

## 24 新町泉

水の都西条を象徴する水のスポット。伊曾乃神社の祭礼の際には穴場として人気がある。近年のアクアトピア事業で整備されたが、北側に植樹されたため、祭礼の際の景観が悪くなったのが残念。



嶮風庵

## 25 三品邸（嶮風庵）

白壁の塀に囲まれた旧家で、邸内にはタイサン木の古木や珍しい種類の椿などが多数ある。旧西条藩奉行職愛久澤氏宅跡にあり、母屋には隠し階段を備えるなど江戸期に造られた建築物であることがわかる。周辺の水辺環境との調和にも見るべきものがある。三品邸として昭和11年頃に建てられた近代和風建築としても見るべきものがある。別館の中国茶館では軽食をとることもできる。

## 26 JA水都市

新鮮な農産物を生産者が直接持ち込んで安価に販売する青空市。県内最大の青空市で、地元生産者と消費者の交流の場として重要な役割を果たしている。

生産者と消費者の交流の中で、話題となった「農薬問題」が発端となり、農家の余剰分を直接消費者に販売してもらえないかという発想が、この市の始まり。当初は一袋100円であったことから、「青空百円市」という名称でスタートした。



JA水都市

## 27 荒（こう）神社

『西條誌』に、朔日市村高橋備中という神主の奉仕する荒神社の記述がある。これが現在の喜多川のお荒神さんと考えられる。荒神社は西日本に多く分布し、火の神、かまどの神として祀られていることが多く、農耕・牛馬の神の性格を持つ三宝荒神と屋敷神・同族神として祀られるものに大別されるが、この神社は定かではない。

境内にそびえる大銀杏は有名で、かなり遠くからでも見渡せる。



**28 大通寺**

宝暦4年（1754年）の飢饉の際に尽力した、高僧密元のお墓がある。山門は旧西条藩の陣屋から移設されたもので、当時の面影を残す立派なもの。観音水からの流れもあり、街中のオアシス。

**29 栄町商店街**

大正、昭和中期に建築された建物が現在も残る、レトロな雰囲気を醸す商店街で、その一角の住吉神社の横には、人工的にポンプアップしているが小さな泉があり、ベンチも置かれ、買い物途中に休憩することもできる商店街の中の“ポケットパーク”になっている。

**30 禎祥寺の藤（観音さんの藤）**

県の天然記念物に指定された「観音堂の藤」は樹齢400年。種類はノダフジで、毎年4月下旬から5月上旬にかけて、長さ50cm～60cmもある花房が垂れ下がり、四囲に芳香を放っている。

**31 観音さんの花火**

8月17日の午後8時から約1時間、数百発の打ち上げ花火が夜空を染める。天正の陣で死亡した人達の霊を慰める送り火の一種で、伝統ある行事。

**32 古川橋から見る山並み**

古川橋歩道橋から見える石鎚山系の山並みは特に美しい。主峰・石鎚山はもちろん、ここから見る「伊予富士」の姿が最も富士山に似ていて美しい。



大通寺



栄町商店街



禎祥寺の藤



観音水モニュメント





西条藩陣屋大手門



らんかん橋



総合福祉センター